

写真・図表・イラスト	◆ セミナーの構成: 講義 20 分 + グループワーク 60 分 + まとめ 20 分 ◆ 講義: テーマに合わせた重要ポイントを解説 (図は第 1 回講義資料の一部) ◆ グループワーク: 参加者のうち 1 名がモデル事例を発表し、そのブラッシュアップ方法についてグループでディスカッション。ファシリテーターが助言する。 ◆ 終了時に「課題」を提示し、提出抄録から次のプレゼン候補を選定した。 ◆ グループ数 (3〜4) に、それぞれファシリテーターを 1〜2 名配置した。	実践活動を学会で発表する ◆ 報告するテーマ ・ 日頃の実践活動のうち、活動成果をまとめて整理したいもの、新しく取り組んだ活動の評価をしたいもの、課題提起したいものなどから絞り込む ◆ 報告内容 ・ 実践活動の目的・目標、具体的な実施方法、活動の評価を整理したもの ・ 本格的な分析までは求められない ◆ タイムスケジュールを設定 ・ 社外に公表 (学会発表) することに、社内で合意を得ておく ・ どの学会で発表するかを決め、それに向かって計画的に準備を進める ・ 抄録作成 (演題登録) や発表方法 (口演、ポスター) のやり方を学び、実践してみる 学会発表経験者や上級専門家の助言を受けながら取り組む		
効 果	◆ 参加申込者: 32 名。(産業保健看護専門家の登録の有無は不明) ◆ セミナー参加者: 第 1 回 25 名、第 2 回 21 名、第 3 回 21 名、第 4 回 16 名。 ◆ 申込時の学会発表経験: 0 回 (17 名、54%)、1 回 (7 名、23%) ◆ セミナー終了時のアンケート (回答 13 名): ①学会演題登録者 7 名、今後発表予定 5 名、②セミナーへの満足度: 満足 11 名 (85%)、やや満足 2 名 (15%) ◆ 2024 年度東海地方会学会の一般演題 18 題のうち 8 題が本セミナー受講者であった。発表者の会場での様子から初めての発表者が多かったと推察される。			
この GPS の経験から学ぶことができるポイント	◆ 本セミナー方式は、産業看護専門家制度における個別指導と比較して、上級専門家の負担軽減と同時に、参加者が様々な事業場での取り組み内容を共有し、お互いに励まし合うことにより、学会発表へのモチベーション向上にも寄与したと考えられる。 ◆ 当初の予想 (15 名) より申込者が多かったため、地方会産業保健看護部会員より 3 名の看護教員を追加し、6 名の企画運営体制とした。当日は 1 名が事務や Zoom 管理を担当、3〜4 名が当日のファシリテーターを務めた。講師やファシリテーター以外にも毎回のセミナー開催や課題提出等の周知等、参加者との連絡調整作業は予想以上に多かった。 ◆ Zoom は地方会契約のアカウントを利用した。講師を含め企画運営委員は全て地方会部会員で、資料も電子ファイル配信としたため、費用はかかっていない。 ◆ 本セミナーの効果を確実に検証するために、セミナー前後の記名式調査や看護専門家の登録者から専門家へアップ、地方会学会以外の総会や全国協議会での発表を確認する追跡調査の必要性が今後の課題である。 ◆ 2025 年度は地方会学術推進委員会との共同開催に変更し、医学科教員や衛生管理者、産業保健看護職 (実践家) 等を含む 10 名運用体制に拡大した。また、広報や Zoom 担当を置き、抄録の提出用の google box を設置する等、作業の分業化・効率化を図った。地方会学会研究相談コーナーとの連携、実践家をファシリテーターに追加して、持続可能な運営体制への見直しを図った。参加者からは好評で 2026 年度も継続事業となった。 ◆ 同様の悩みを抱える他地方会の産業保健看護部会の参考事例になれば幸いである。			
参考資料				
COI 欄	利益相反なし			
投稿者	渡井いずみ、後藤由紀、巽あさみ、梅津美香、大森美保、影山淳	e-mail	2026 年 3 月 1 日	